

2017年度新設

地域eモビリティ推進委員会 活動案

一般社団法人電気自動車普及協会
地域eモビリティ推進委員会

委員長	田嶋	伸博
副委員長	鈴木	高宏
事務局長	田中	郁子

活動紹介

業界の垣根を越えた、次世代自動車普及促進のためのつながる活動



これまでの実績 (1)

2013年豊島モビリティプロジェクト

香川県、土庄町（香川県小豆郡）、ソフトバンクモバイル株式会社（当時）、株式会社ベネッセホールディングス、APEVの連携事業

豊島ドライビングマップ

電気自動車が行可能な道
赤線で示した道以外は、電気自動車での進入は禁止されています。

自動車のレンタル窓口・充電スポット
豊島マイクロEVセンター
(豊島交流センター内)

充電スポット
唐櫃町自治会駐車場
(唐櫃町中心部)

瀬戸内国際芸術祭2013 夏～秋会期の作品

- トピアス・レーベルガー「イル・ヴェント」(レストラン)
- 木下晋「100年の間」ほか
- アート・堀尾忠則/建築・末山祐子「豊島稲穂鼓」
- 石上純也「mountain project」
- 高方里子「トムナフーリ」
- 吉木野枝「空の穀子/唐櫃」(屋外作品)
- 高キッチン(レストラン)
- ピロリッティ・リスト「あなただけの最初の色」
- シャネット・カーティア&ジョージ・ピレス・ミラー「ストーム・ハウス」
- アート・内藤礼/建築・斎沢立衛「豊島美術館」
- イオバット&ボズ「勝者はいない——マルチ・パスケットボール」
- クリスチャン・ポルトゥガーズ「心臓音のアーカイブ」
- 島田千春「深い記憶」
- フレイクワルシュ&ヒロミツタンゴ「鏡/Traoes」(屋外・屋内作品)
- マイク&ダグ・スタン「Big bambi」
- リレーション・ロン「国境を越えて海」

安全・快適にご利用頂くためのご案内

- ドライビングマップで示した範囲、周辺以外の走行はご遠慮下さい。
- 小型の電気自動車は重荷の出し入れが難しいので、荷物の出し入れは、事前に確認をお願いします。
- 車輪は簡単に転車し、アート・運転をお楽しみ下さい。
- 運転にありましては制限速度、道路標識を守り、歩行者や自転車へ配慮した安全運転をお願いします。
- ご乗降時であっても忘れられた場合は走行してください。
- 水たまりは能力を超えて走行してはなりません。



「瀬戸内国際芸術祭2013」内
豊島モビリティセンターオープニングセレモニー
(左から) APEV福武名誉会長、土庄町岡田町長（当時）、
豊島食プロ協議会濱中副会長、山本会長（当時）、
ソフトバンク山口室長、日産カーレタリビューション中川社長 他

* 国土交通省「超小型モビリティの導入促進事業」の支援案件

- ・ 観光客へ超小型モビリティを有償で貸出（日産NMC 6台、利用料金1日8,400円/1台）
- ・ 香川県豊島の観光資源の価値向上、潜在的な観光客獲得を目的
- ・ 実施期間：2013年7月20日～2014年3月31日

これまでの実績(2)

2015年「大地の芸術祭」との連携事業

新潟県、十日町市、BMWジャパン、日産レンタカー、APEVの連携事業



越後妻有
「大地の芸術祭2015」でのテープカットセレモニー



十日町市・松之山温泉
旅館「ひなの宿ちとせ」
でのEV（日産リーフ）
シェアリング事例



十日町市・松之山温泉
温泉の熱を利用した
地熱発電



越後妻有「大地の芸術祭2015」
でのBMW i3（EV）オフィシャルカー

- ・十日町市松之山温泉「ひなの宿ちとせ」EVシェアリング 2015年7月～2017年現在も実施中
- ・BMW i3(EV)オフィシャルカー走行&テストライド
実施期間：2015年7月26日（日）～9月13日（日）：50日間

これまでの実績 (3)

2016年長野県・軽井沢G7交通大臣会合

■直前イベント @軽井沢風越公園 2016年9月4日(日)



VW社・Golf GTE(先導) /Passat GTE
自動走行デモンストレーション
APEV横川会長とWomen in Motorsportsメンバー



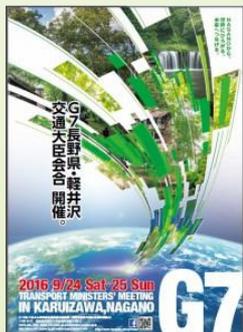
ベネッセ社・こどもちゃれんじ
「しまじろうカー ii (EV)」と
カーレーサー井原慶子氏



直前イベント「未来へ発進！エコカーふれあいフェスタ
in軽井沢」内APEV主催シンポジウム
国土交通省 自動車局 環境政策課 高井氏講演

■G7交通大臣会合内展示会への出展 @軽井沢プリンスホテル

2016年9月23日(金) - 25日(日)



G7交通大臣会合 (中央・石井国土交通大臣)



EU運輸担当代表
ビオレタ・ブルツ氏



ドイツ運輸交通相
アレクサンダー・ドプリント氏

- APEV会員社と出展
- ・村田製作所
 - ・ニコ・ドライブ
 - ・光岡自動車



東京オリンピック・パラリンピック 競技大会開催へ向けての周辺事業

開催機運を高め日本のモビリティ技術・サービスをPRするための
“盛り上げイベント”を会員とともに行っていくことを目的とする

2020五輪のコンセプト
“多様性と調和”に沿った形で
既存の公共交通機関に
加え、様々な
次世代型Mobilityを展開



多様性と
調和

環境との
共生

**EVなど次世代型Mobilityと
地球環境保全について**

クリーンな
次世代型Mobility
とエネルギーシステムの普及



五輪後も
継続的、持続的
環境保全活動へつなぐ
体験・体感から実践へ
普及啓発活動と発信



体験型
Showcase

選手観客
おもてなし

五輪をきっかけに
訪れる国内外の方々等に
対するおもてなしに、
日本が誇る
次世代MobilityやIoT、
環境技術などを活用

対象となる電動駆動車の分類

速度
(km/h)

60km/h

20km/h

普通乗用車



トヨタ製・PHV
プリウス 定員4名



テスラ製・EV
Model S
定員5名



日産製・EV
e-NV200
定員最大7名



BMW製・EV
i3 定員4名



日産製・EV
リーフ
定員5名



VW製・PHV
パサーeGTE
定員5名



防災対応型中型PHVバス
日野自動車製
「メルファ
プラグインハイブリッド」
定員41名



三重交通ピカチューバス
(EVコンバージョン)
ベースはいすゞエルガ
フラットフィールド製
・定員77人

超小型 モビリティ



トヨタ製
「i-ROAD」
定員1名



タジマモーター・NTN
静岡県磐田市公用車定員2名



トヨタ車体制
「コムス」
1名



日産製
「New Mobility Concept」
定員2名



ホンダ製「MC-β」定員2名
または3名(大人1名子ども2名)



電動バスecom-8
株式会社シンクトウギャザー製
定員10名



ヤマハ2人乗り (EV)YDRE



スズキセニアカー ET4E
車いす 電動 カート・6.4km/h



ヤマハ6人乗り (EV)YDRE SVL

乗車人数(人)

事業案(1) 島しょ部の自然エネルギーを 活用したeモビリティ事業



<コンセプト>

EVを乗る人にも、環境にも優しいクリーンで快適な島

- ▶ 「美しい自然に溢れる島に到着すると、EVが出迎えてくれる」
- ▶ 「島内ではクリーンなエネルギーを活用したEVがあちこちで走っている」
- ▶ 「観光客のクリーンで快適な移動の足として、また島民のサステナブルな移動の足としてEVが活用されている」

事業案(2) オールド・ニュータウンにおける 高齢者等のモビリティ支援事業



輪島商工会議所 次世代交通対策事業
(ヤマハランドカー)



株式会社良品計画(無印良品-MUJI-)と独立行政法人都市再生機構(UR)
による団地リノベーションプロジェクトHPより
http://www.muji.net/ie/mujiur/area/10_shinagawa.html

- 全国の大都市郊外地区に昭和30年代後半から建設されたニュータウンでは、開発から40年以上が経過しているところが多く、居住者の高齢化や人口減少、住宅及び関連施設の老朽化など多くの問題が生じている
- 特に、高齢化が進んだ住民の移動機能の低下が著しく、公共交通サービスや徒歩での移動が難しくなっていることから、家にこもりがちになる住民の増加や、コミュニティの崩壊も指摘されている
- こうしたニュータウン地区での高齢者等のモビリティ支援事業を行うことで、域内の活性化や若年層の雇用創出などにつながる新しいモデル事業開発をめざす

各事業案に横断的に係る 次世代モビリティ・アンバサダー育成事業

社会課題

- 高齢ドライバーによる危険運転・交通事故など
- 過疎地域などにおける交通弱者の移動問題
- 若者のクルマ離れ・シェアリングエコノミー

政策課題

交通事故の96%は運転者に起因
法令違反別死亡事故発件数 (H25年)
運転者の法令違反 96%

不適切な車間距離や加減速により、渋滞が発生

将来ビジョンと実用化に向けた課題

【将来ビジョン】(自動運転技術の活用例)

トラックの隊列走行

安全に効率良く運ぶ

ラストワンマイル自動走行
最寄り駅等 → 最終目的地 (自宅・病院等)

新たな交通サービス

国土交通省「追加選定『生産性革命プロジェクト』」
(平成28年11月25日発表資料より)



写真：立教大学経営学部「社会課題の解決は誰がするのか」
ワークショップ (平成28年11月17日BMW i 虎ノ門Megacity Studioにて)



写真：東京オリンピック組織委員会HP
「ボランティアについて」より

- ◆ 国や民間企業などによる課題解決の取り組みに関するワークショップ実施
- ◆ 受講者が自らアンバサダーとなって、[東京オリンピック・パラリンピック]を訪れる選手・観光客等に日本のテクノロジーやサービスの紹介・体験会実施 (外国語対応含む)